

スーパーマーケット販売統計調査資料

2021年5月実績 速報版(パネル270)

4月実績 確報版(パネル270)

(2021年6月22日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2021年6月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2021年5月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)	2019年同月比 (全店)	2019年同月比 (既存店)
総売上高	100,263,602	100.0%	97.7%	97.0%	107.8%	106.7%
食品合計	91,505,710	91.3%	98.1%	97.2%	109.6%	108.3%
生鮮3部門合計	34,842,273	34.8%	95.8%	94.8%	111.2%	109.6%
青果	13,943,812	13.9%	94.0%	93.1%	110.3%	108.9%
水産	8,821,986	8.8%	99.6%	98.5%	110.8%	109.0%
畜産	12,076,474	12.0%	95.4%	94.3%	112.5%	110.9%
惣菜	10,439,138	10.4%	109.2%	108.0%	108.0%	106.5%
日配	19,911,960	19.9%	96.6%	95.5%	108.8%	107.2%
一般食品	26,312,340	26.2%	98.5%	97.9%	109.2%	108.3%
非食品	6,505,502	6.5%	93.6%	92.9%	98.3%	99.0%
その他	2,252,436	2.2%	98.6%	98.3%	87.1%	89.5%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,584,556	43	98.3%	98.0%
関東地方	37,086,479	73	97.4%	96.6%
中部地方	11,933,457	53	96.0%	95.2%
近畿地方	22,649,080	44	98.1%	97.5%
中国・四国地方	10,044,649	34	99.2%	97.1%
九州・沖縄地方	4,965,381	23	98.5%	98.3%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	661,195	46	91.2%	91.2%
4~10店舗	4,738,895	82	93.2%	92.8%
11~25店舗	9,998,807	54	96.3%	95.9%
26~50店舗	17,240,001	44	96.3%	96.3%
51店舗以上	67,624,704	44	98.6%	97.5%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	98,470,210	
総店舗数 (店舗)	8,201	店舗平均月商 (万円)	12,226	
総売場面積 (㎡)	13,706,385	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.3	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

※前々年比集計 (既存店) : 前々年比と当月で保有店舗数に変化のない企業を対象

2021年6月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2021年4月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	94,736,958	100.0%	94.3%	93.7%
食品合計	86,380,339	91.2%	93.6%	93.0%
生鮮3部門合計	32,736,469	34.6%	92.3%	91.6%
青果	13,140,354	13.9%	91.1%	90.4%
水産	8,325,760	8.8%	97.9%	97.1%
畜産	11,270,356	11.9%	90.0%	89.2%
惣菜	9,817,223	10.4%	108.7%	107.8%
日配	18,852,277	19.9%	92.5%	91.9%
一般食品	24,974,369	26.4%	91.2%	90.7%
非食品	6,131,175	6.5%	101.4%	100.9%
その他	2,225,491	2.3%	103.9%	104.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,717,657	43	96.1%	95.7%
関東地方	34,762,242	73	92.9%	92.3%
中部地方	11,373,699	53	94.0%	93.1%
近畿地方	21,774,070	44	94.9%	94.6%
中国・四国地方	9,374,328	34	95.6%	94.2%
九州・沖縄地方	4,734,961	23	97.5%	97.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	615,526	46	88.0%	88.4%
4~10店舗	4,329,745	81	89.4%	89.8%
11~25店舗	9,434,906	54	93.2%	93.3%
26~50店舗	16,179,064	44	93.9%	94.0%
51店舗以上	64,177,717	45	95.0%	94.0%

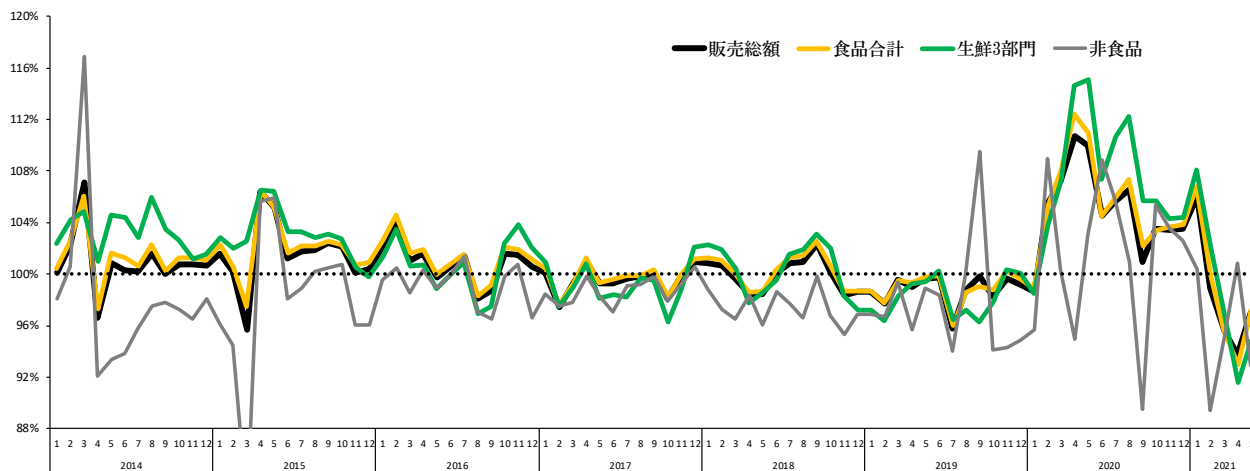
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	93,086,140
総店舗数 (店舗)	8,245	店舗平均月商 (万円)	11,490
総売場面積 (㎡)	13,713,254	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.9

※売上高は税抜金額

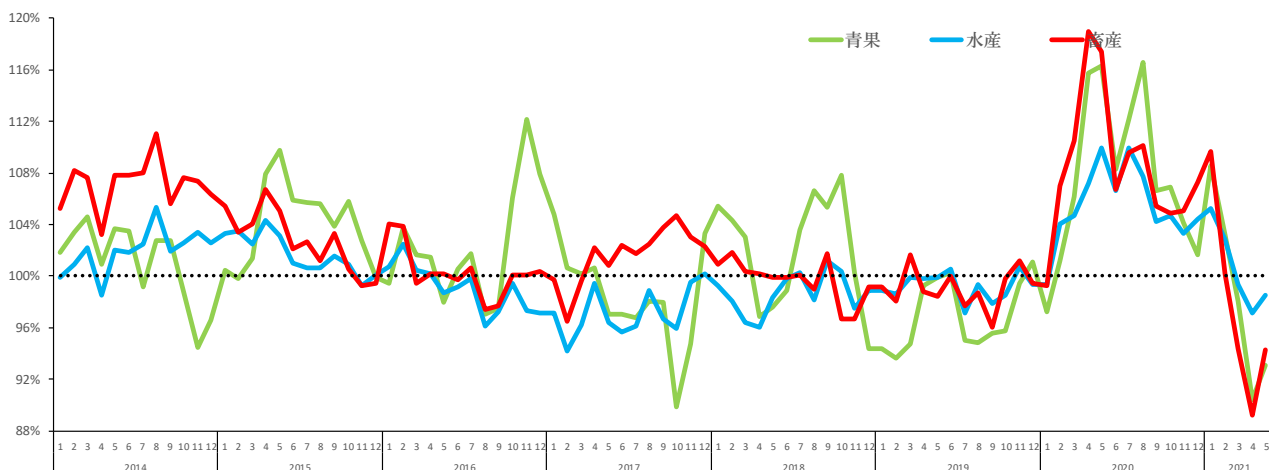
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

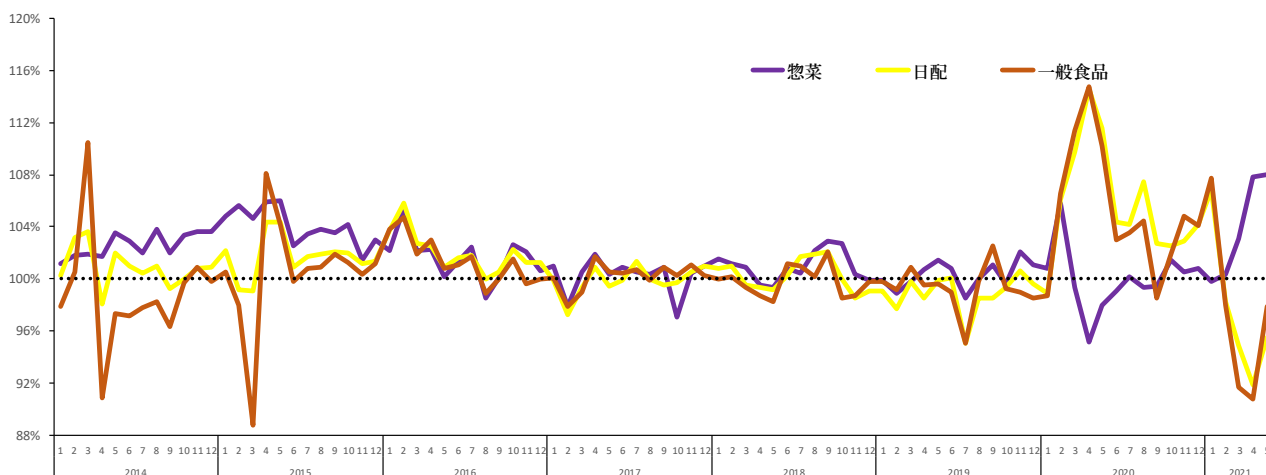
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2021年5月実績は速報版

2021年5月エリア別気候状況

気温の特徴：中旬は全国的に高かった

上旬：西日本で低い一方、沖縄・奄美では高かった。

中旬：西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北・東日本では高かった。

下旬：沖縄・奄美でかなり高かった。一方、西日本で低かった。

2020年5月との比較：上旬は前年より低い地域が多く、中旬はやや高い地域が多くなった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2021年5月			2020年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	-0.1	1.5	-0.6	1.9	0.1	-0.2	-2.0	1.4	-0.4
太平洋側	0.7	1.2	0.3	2.4	0.0	0.4	-1.7	1.2	-0.1
東日本 日本海側	-0.2	1.3	-0.7	1.2	1.0	0.1	-1.4	0.3	-0.8
太平洋側	-0.1	1.3	0.3	1.3	1.5	0.2	-1.4	-0.2	0.1
西日本 日本海側	-0.6	1.7	-0.4	1.3	0.6	0.0	-1.9	1.1	-0.4
太平洋側	-1.0	1.7	-0.5	1.0	0.9	0.3	-2.0	0.8	-0.8
沖縄・奄美	0.6	2.9	1.5	1.1	0.5	0.1	-0.5	2.4	1.4

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

日照時間の特徴：北・東日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本で少なかった。

上旬：東・西日本太平洋側で多かった。一方、東日本日本海側で少なかった。

中旬：東日本太平洋側と西日本でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では多かった。

下旬：、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側、東日本、西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。

2020年5月との比較：中旬にかけて東日本太平洋側や西日本でかなり少なく、下旬は北日本と東日本日本海側で少なくなった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年5月			2020年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	84	111	44	92	91	109	-8	20	-65
太平洋側	104	96	70	99	86	114	5	10	-44
東日本 日本海側	90	78	78	97	85	110	-7	-7	-32
太平洋側	115	47	89	103	109	90	12	-62	-1
西日本 日本海側	109	32	101	103	97	107	6	-65	-6
太平洋側	112	28	91	103	106	104	9	-78	-13
沖縄・奄美	106	158	88	101	77	71	5	81	17

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

降水量の特徴：西日本でかなり多く、北日本日本海側と東日本で多かった。

上旬：北日本太平洋側で少ない一方、東日本日本海側で多かった。

中旬：北日本日本海側と西日本でかなり多く、東日本日本海側で多かった。

下旬：北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と東・西日本、沖縄・奄美で多かった。

2020年5月との比較：中旬から下旬にかけて、全国的にかなり多くなった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年5月			2020年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	73	175	165	94	80	98	-21	95	67
太平洋側	56	102	146	52	109	60	4	-7	86
東日本 日本海側	111	182	160	32	85	37	79	97	123
太平洋側	69	106	154	59	140	36	10	-34	118
西日本 日本海側	81	292	140	79	160	21	2	132	119
太平洋側	76	263	162	50	179	31	26	84	131
沖縄・奄美	94	15	113	171	199	158	-77	-184	-45

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁報道資料「5月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年（1991年～2020年）の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2021年6月調査結果（5月実績）
（2021年6月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DI 見通し判断 悪化に歯止め

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から+2.5の39.7、見通し判断は前月から+4.0の37.7となり、共に前月から改善し、見通し判断の改善幅が大きかった。

経営動向調査は、売上高DI、収益DI共に前月よりマイナス幅を縮小した。引き続き巣ごもり傾向により、堅調な食品需要に大きな変化はみられないが、前年の食品備蓄行動による特需が起きた保存性の高い食品や、マスクなどの衛生用品、紙製品の反動が大きい。一方で、週末を中心に前年に比べ来店頻度に増加傾向がみられたことで、来客数DIは小幅に上昇した。

カテゴリー動向調査では、前年特需となった、保存性の高い畜産、一般食品、非食品カテゴリーで反動を大きく受け、前年プラス幅が大きかったカテゴリーほど下落幅が大きくなった。一方で、今年再び緊急事態宣言が発令された地域では、家庭内食事需要に支えられマイナス幅が小さかった。前年不振であった惣菜DIはわずかにプラスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、景気判断DIや消費者購買意欲DIはやや改善し、特に見通し判断に改善傾向がみられた。（長期傾向についてはp11参照）

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が長引く中でも、ワクチン接種の拡大で過度な悲観論には歯止めがかかった。販売実績は昨年の反動が続いているが、徐々に生活に変化の兆しも見え始めている。今後飲食店への自粛要請緩和や行楽需要の回復など消費者行動が外に向かうことで、新たな反動が予想される。これまで高水準で推移してきた客単価をどう維持していくか、入念な対策が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：39.7 (+2.5)
前月：37.2

消費者購買意欲DI
当月：42.5 (+3.2)
前月：39.3

周辺地域 競合状況DI
当月：41.8 (-0.6)
前月：42.4

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：40.4 (+0.7)
前月：39.7

見通し判断

景気判断DI
当月：37.7 (+4.0)
前月：33.7

消費者購買意欲DI
当月：41.3 (+3.5)
前月：37.8

周辺地域 競合状況DI
当月：41.1 (+0.7)
前月：40.4

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：39.7 (+2.1)
前月：37.6

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-18.3 (+6.3)
前月：-24.6

客単価DI
当月：-12.7 (+3.2)
前月：-15.9

来客数DI
当月：-9.4 (+5.8)
前月：-15.2

収益DI
当月：-19.9 (+2.7)
前月：-22.6

販売価格DI
当月：-2.5 (+2.2)
前月：-4.7

生鮮品仕入原価DI
当月：1.6 (+4.5)
前月：-2.9

食品仕入原価DI
当月：2.5 (+4.9)
前月：-2.4

カテゴリー動向

青果DI
当月：-22.0 (+2.6)
前月：-24.6

水産DI
当月：-7.4 (+6.3)
前月：-13.7

畜産DI
当月：-20.4 (+9.1)
前月：-29.5

惣菜DI
当月：15.4 (+0.6)
前月：14.8

日配DI
当月：-17.4 (+7.5)
前月：-24.9

一般食品DI
当月：-14.1 (+14.8)
前月：-28.9

非食品DI
当月：-21.9 (+2.1)
前月：-24.0

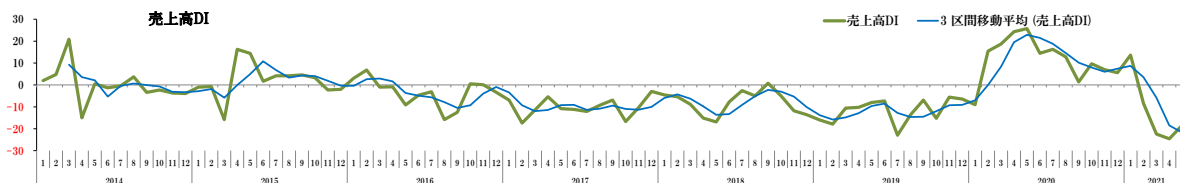
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前年比では3ヵ月連続マイナスも、マイナス幅は縮小

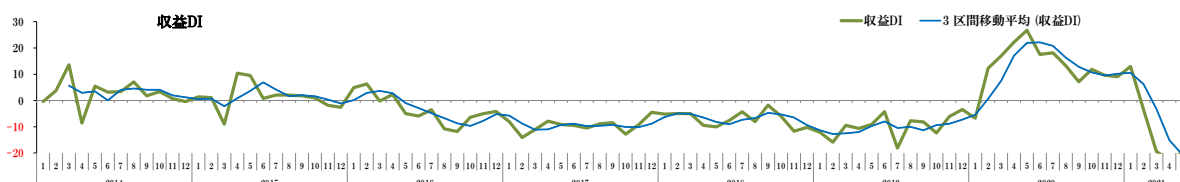
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	38.9	37.8	8.3	12.8	2.2	-24.6
売上高 (当月)	22.5	44.4	18.3	13.4	1.4	-18.3



2. 収益DI

前年比では3ヵ月連続マイナスも、マイナス幅は縮小

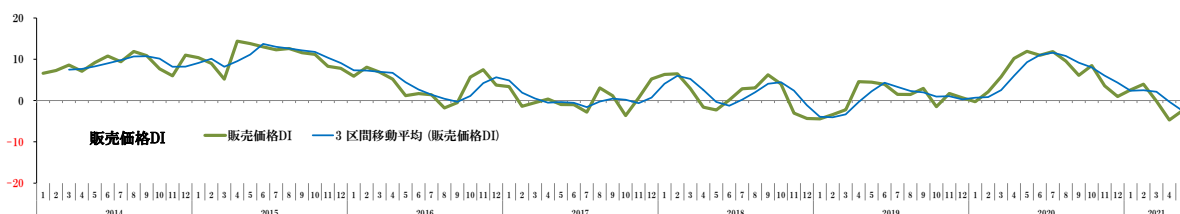
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	34.5	36.7	15.3	11.9	1.7	-22.6
収益 (当月)	26.2	39.0	22.7	12.1	0.0	-19.9



3. 販売価格DI

2ヵ月連続のマイナス域での推移

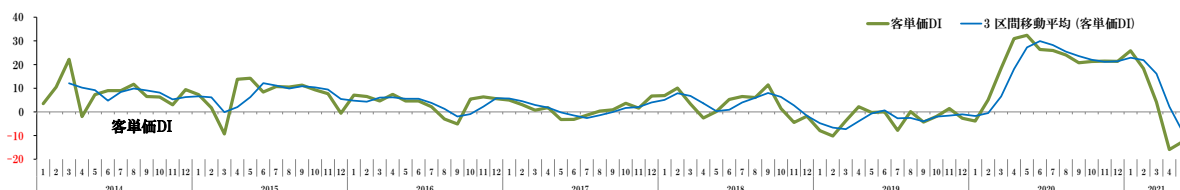
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	3.3	22.8	63.3	10.6	0.0	-4.7
販売価格 (当月)	1.4	16.2	73.2	9.2	0.0	-2.5



4. 客単価DI

前年比は二桁マイナスもマイナス幅は縮小

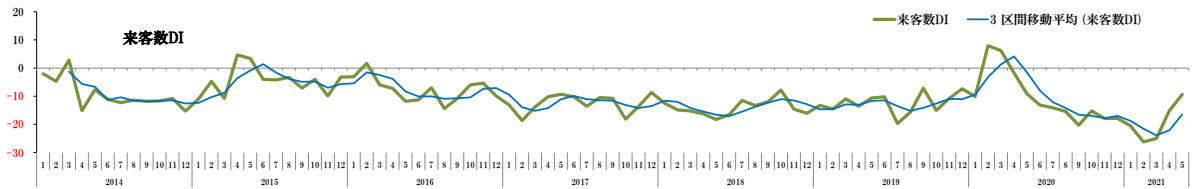
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	20.1	40.8	23.5	14.0	1.7	-15.9
客単価 (当月)	15.7	36.4	30.7	17.1	0.0	-12.7



5. 来客数 DI

来店頻度の増加傾向が続き、一桁マイナスまで回復

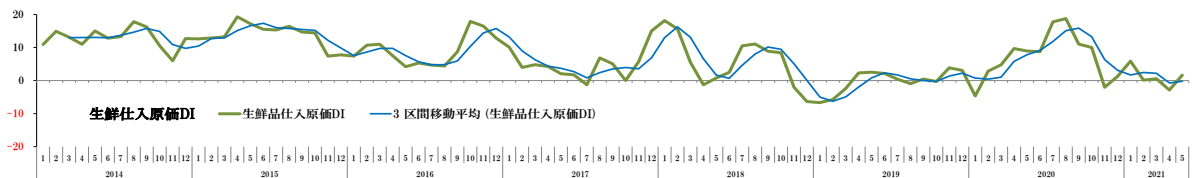
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	21.3	42.1	15.7	17.4	3.4	-15.2
来客数 (当月)	15.1	34.5	29.5	14.4	6.5	-9.4



6. 生鮮仕入原価 DI

ほぼ前年同期水準で推移

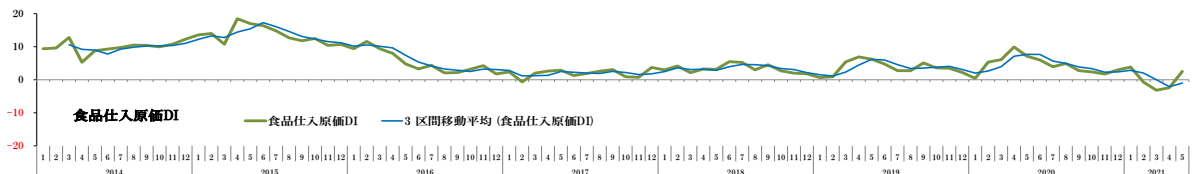
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	5.1	17.7	61.7	14.3	1.1	-2.9
生鮮仕入原価 (当月)	3.6	12.3	60.1	21.7	2.2	1.6



7. 食品仕入原価 DI

小幅なプラス圏に上昇

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	7.3	11.3	65.5	15.3	0.6	-2.4
食品仕入原価 (当月)	2.2	9.4	65.2	22.5	0.7	2.5

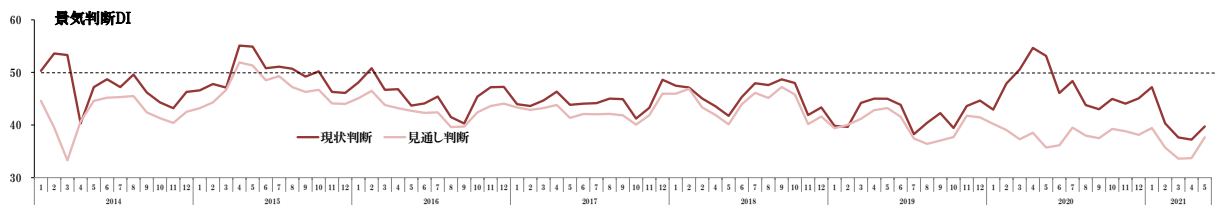


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し共に改善

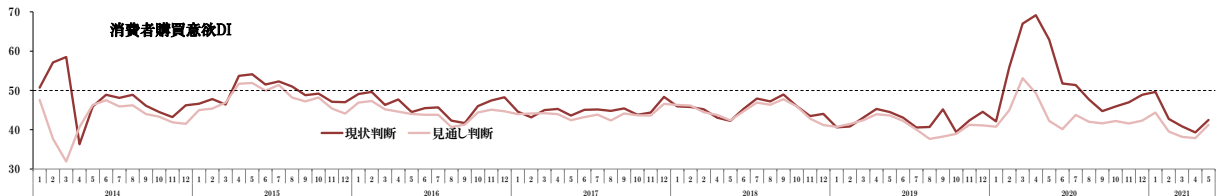
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	8.3	40.6	45.0	6.1	0.0	37.2
【現状】景気判断 (当月)	5.5	37.7	49.3	7.5	0.0	39.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	12.2	45.9	37.0	5.0	0.0	33.7
【見通し】景気判断 (当月)	7.5	39.7	47.3	5.5	0.0	37.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し共に改善し、共に 40 台に回復

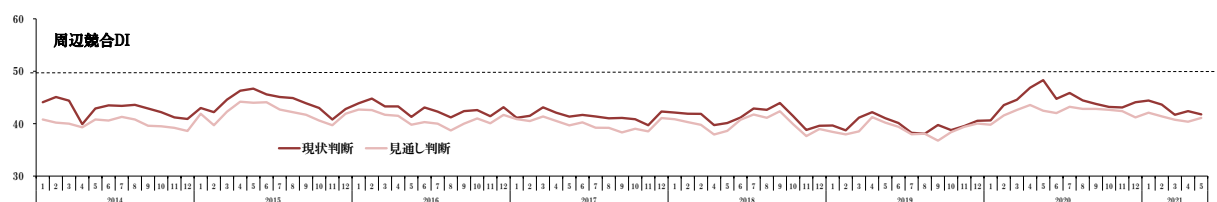
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	3.3	41.7	49.4	5.6	0.0	39.3
【現状】購買意欲 (当月)	0.7	39.0	50.0	10.3	0.0	42.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.4	44.2	47.0	4.4	0.0	37.8
【見通し】購買意欲 (当月)	1.4	39.0	52.7	6.8	0.0	41.3



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも横ばいでの推移

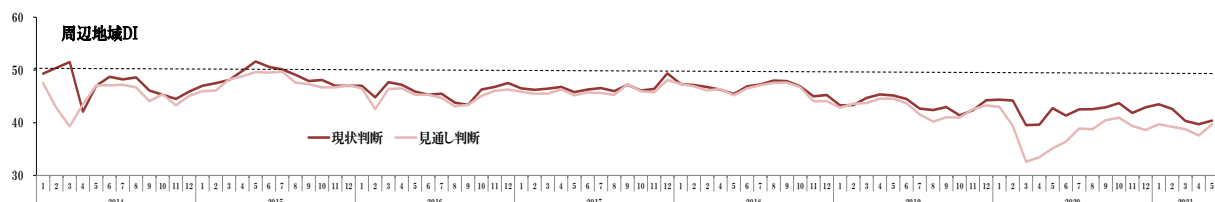
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.9	23.2	72.4	0.6	0.0	42.4
【現状】競合状況 (当月)	3.4	28.1	66.4	2.1	0.0	41.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.9	29.7	64.3	1.1	0.0	40.4
【見通し】競合状況 (当月)	4.8	28.1	65.1	2.1	0.0	41.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に改善

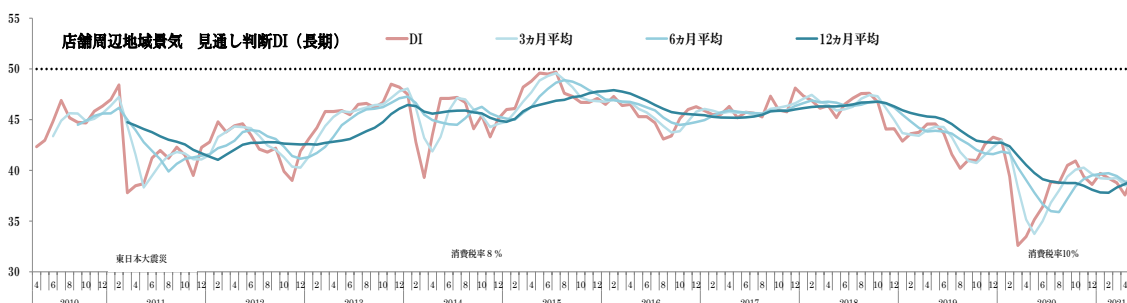
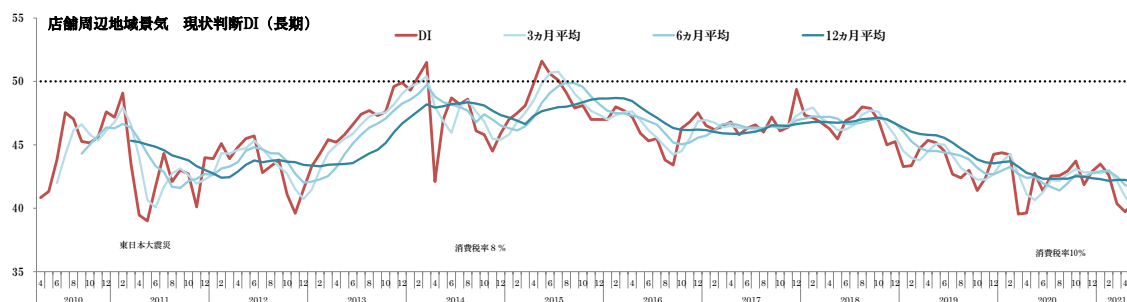
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	2.2	39.4	55.6	2.8	0.0	39.7
【現状】地域景気 (当月)	0.7	39.0	58.2	2.1	0.0	40.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	5.0	43.1	48.6	3.3	0.0	37.6
【見通し】地域景気 (当月)	2.7	37.0	58.9	1.4	0.0	39.7



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

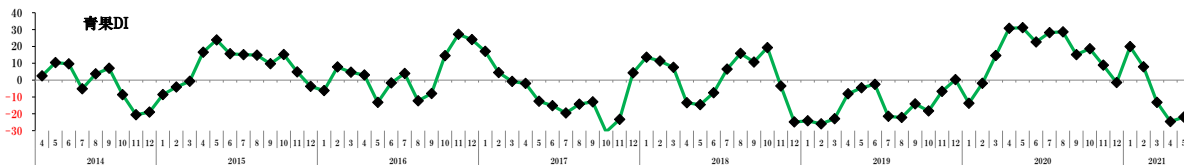
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したのが、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。その後21年2月以降は悪化傾向となっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-22.0（かなり不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	38.2	37.6	11.0	11.0	2.3	-24.6
青果（当月）	26.4	46.4	17.1	8.6	1.4	-22.0

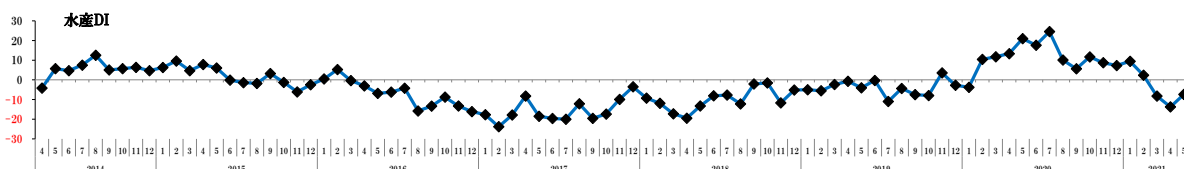


これまでの家庭内食事需要に大きな変化はみられないものの、前年の緊急事態宣言下で購入された商品を中心に反動減がみられた。前年に比べ青果相場が安値で推移したことの影響を大きく受けた。

家庭料理ニーズの高いタマネギやじゃがいも、ニンジンなど土物類は相場の下落が比較的小さかったことで落ち込み幅は小さかった。一方でトマトや洋菜、キュウリなどのサラダ商材やキャベツなどの葉物類は相場の落ち込み幅が大きく不振となった、果物は柑橘類やバナナには反動減がみられたが、キウイフルーツや、台湾産が注目されたパイナップルなどは引き続き好調となった。花類の売上が回復したとのコメントもみられた。

2. 水産DI：-7.4（やや不調）

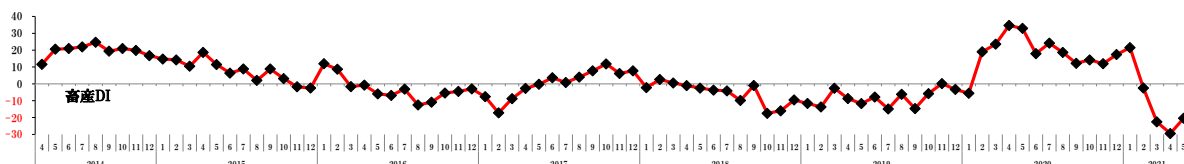
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	18.7	42.1	18.7	16.4	4.1	-13.7
水産（当月）	12.9	33.1	27.3	23.7	2.9	-7.4



他のカテゴリー同様に、前年の緊急事態宣言下で購入された簡便調理商品や、保存できる塩干、冷凍加工品に大きな反動減がみられた。一方で、前年敬遠された生魚や貝類は売上が回復しているほか、家庭用「需要を追い風にマグロやカツオなど刺身類、こどもの日に関連した手巻き寿司用の盛り合わせが好調となった。中旬以降気温の上昇により、うなぎが好調に。

3. 畜産DI：-20.4（かなり不調）

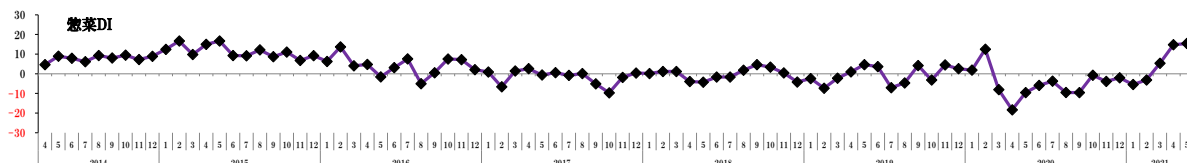
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	44.5	35.8	13.3	5.8	0.6	-29.5
畜産（当月）	27.7	43.3	14.9	11.3	2.8	-20.4



前年に保存に優れた畜産品の需要が急増した反動が続いている。特に加工肉や挽肉で前年との反動が大きかった。豚肉や鶏肉は国産相場が上昇しており、輸入品を拡販する動きもみられる。牛肉は国産牛や味付け肉に反動が大きいが、ステーキ用や焼肉用は比較的動きがよく、大型連休時のバーベキュー需要が回復した地域がみられた。ハムなど加工肉は前年からの反動減が顕著にみられる。

4. 惣菜DI：15.4（好調）

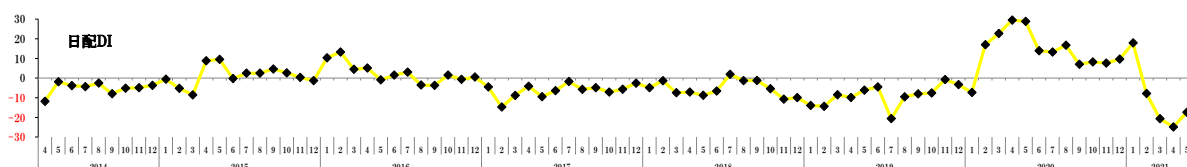
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.5	15.2	19.9	41.5	19.9	14.8
惣菜（当月）	2.2	13.2	25.0	39.7	19.9	15.4



前年、内食の急伸や通勤客の減少、バラ売り中止の影響で伸び悩んだが、今年は回復傾向が続いている。中食ニーズも引き続き好調であり、サラダ関連や自宅では調理しにくい商品群である寿司類や揚げ物、てんぷらなどが好調に推移した。「家飲み」向けの焼鳥やつまみ類も引き続き堅調。GW、こどもの日、母の日向けのオードブルにも回復傾向がみられた。

5. 日配DI：-17.4（不調）

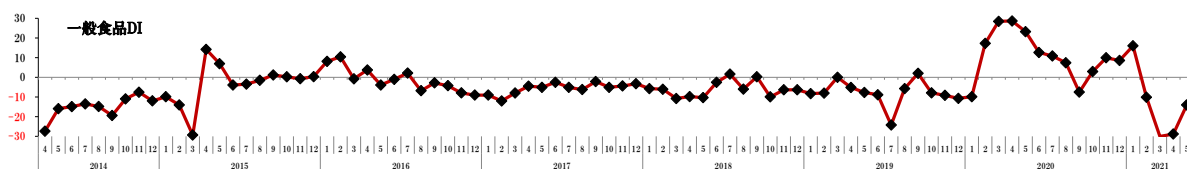
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	30.5	48.3	13.2	6.3	1.7	-24.9
日配（当月）	18.4	46.1	24.1	9.2	2.1	-17.4



内食需要や弁当用として冷凍食品の動きはよいが、牛乳やヨーグルト、納豆やキムチや漬物、麺類などで反動減が大きくなった。鶏卵の価格が高騰しており影響を受けた店舗が多い。上旬は気温が低く、アイスや飲料などが伸び悩んだが、中旬以降は回復をみせた。高単価デザートは引き続き動きがよかった。

6. 一般食品：-14.1（不調）

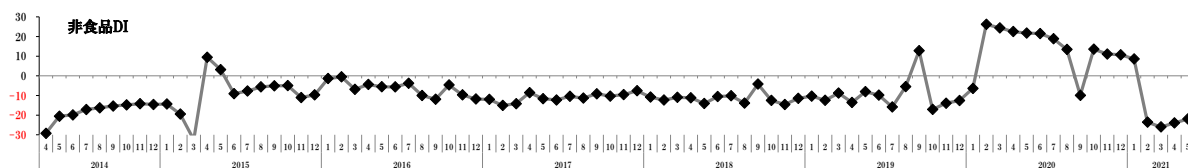
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	42.5	38.5	11.5	6.9	0.6	-28.9
一般食品（当月）	17.6	40.8	25.4	12.7	3.5	-14.1



前年の食品備蓄行動により特需となった保存性の高い食品（カップ麺、パスタなどの乾麺類、シリアル、カレー・レトルト類、缶詰、ミネラルウォーターなど）、簡便商材、穀粉類や製菓材料など手づくり商材で大きな反動減がみられた。一方、前年品薄により十分に販売できなかった店舗では売上を伸ばしたケースも。家庭内調理需要は継続しており、調味料は引き続き好調となった。上旬は気温が低く、そうめんなど涼味商材が不振となった。飲食店の時短営業の影響もあり「家飲み」傾向が顕著となっており、ビールを中心とした酒類や珍味などのつまみ類が引き続き好調。

7. 非食品 DI：-21.9（かなり不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	37.9	34.9	16.0	7.7	3.6	-24.0
非食品（当月）	40.6	26.1	16.7	13.8	2.9	-21.9



前年にハンドソープや除菌関連などの衛生用品で特需となった反動を受け、大幅減となった。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品類についても反動減が大きかった。日用雑貨・家庭雑貨も前年からの好調が一巡しており、伸び悩んだ。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2021年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. 前年緊急事態宣言下からの反動
2. 青果相場安、精肉相場高
3. 週末を中心に来客数回復

（参考）2020年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. 巣ごもり消費（外出自粛による家庭内消費の増大）
2. 手作り需要の増大
3. チラシや特売の自粛

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 146社
 4月実績確報版 182社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp